

平成 20 年度 第 2 回常任委員会 議事録 (案)

日 時：平成 20 年 7 月 8 日 (火) 14:00～16:20

場 所：アクロス福岡 606 会議室

出席者：宮川委員長，横田幹事長，石橋，入矢，上田，魚本，宇治，大津，金津（代理：松村），黒田，堺，佐藤，島，新藤，鈴木，堤，手塚，富田，中村，二羽，橋本，睦好，六郷の各常任委員，岸，佐藤，信田，服部，濱田の各幹事，松沼（事務局）

配布資料：

- 2-0 平成 20 年度 第 2 回コンクリート委員会常任委員会 議事次第
- 2-1 平成 20 年度 第 1 回常任委員会 議事録 (案)
- 2-2 コンクリート標準示方書改訂小委員会について
- 2-3 コンクリート教育研究小委員会 (第 8 期) 設置提案書
- 2-4-1 コンクリート委員会 3 種委員会 設置提案書 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会
- 2-4-2 新規コンクリート委員会・3 種委員会の公募の提案 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会
- 2-5 平成 9～19 年度各新刊の収支 (委員会毎)
- 2-6-1 「平成 19 年度実績の委員会活動度個別調査書」の作成について (ご依頼)
- 2-6-2 平成 19 年度実績の委員会活動度個別調査書
- 2-6-3 添付資料 (3) 委員会別行事収支一覧
- 2-6-4 コンクリート委員会
- 2-6-5 委員会活動度評価に基づく予算配分方法
- 2-7-1 土木学会コンクリート委員会規準関連小委員会委員構成 (案)
- 2-7-2 コンクリート委員会「インフラマネジメント研究小委員会」委員追加について
- 2-7-3 土木学会コンクリート委員会 歴代構造物品質評価/品質検査制度研究小委員会 (JSCE216 委員会)
- 2-7-4 コンクリート委員会 フライアッシュ有効活用研究小委員会 委員構成
- 2-8 示方書改訂講習会開催報告
- 2-9 平成 20 年度 規準関連小委員会作業部会
- 2-10 コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術研究小委員会
- 2-11-1 「ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針 (案) に関する講習会」開催のご案内
- 2-11-2 第 52 回 日本学術会議 材料工学連合講演会 土木学会コンクリート委員会担当オーガナイズドセッション「コンクリート用高性能・高機能補強材とその適用」
- 2-11-3 International Symposium on Society for Social Management Systems 2009

回覧資料：

- ・コンクリート教育研究小委員会報告書 (コンクリート技術シリーズ 78)
- ・コンクリート構造物の耐震設計 (コンクリート技術シリーズ 81)
- ・JSCE2010 社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力

議 事：

1. 委員長挨拶（宮川委員長）

宮川委員長より、開催にあたり挨拶があった。

2. 前回常任委員会議事録の確認（平成 20 年度第 1 回常任委員会）

服部幹事より資料 2-1 の前回議事録（案）が読み上げられ、以下の修正の後に承認された。

- ・ 2 ページ目 下から 12 行目の「ひび割れ幅 5mm」を「ひび割れ幅 0.5mm」に修正。
- また、睦好委員より、示方書講習会スライドの貸与に関して以下の情報提供がなされた。
- ・ JCI では、JCI の講習会などにおいて JASS5 の内容を説明する際には、委員のボランティアにより作成されたスライドが使用されている。よって、JCI から建築学会へ使用料等は支払われていない。

3. 審議事項

(1) 114 ローマコンクリート調査委員会の今後の活動について

服部幹事より、11 月 7 日に予定されていたローマコンクリートの報告会が延期になることが報告された。

(2) コンクリート標準示方書改訂小委員会について

丸山委員欠席のため、代理で二羽委員より資料 2-1 が説明された。主な内容は以下のとおり。

- ・ 示方書の取りまとめに従事した委員を網羅した委員構成となっており、活動の目的は、2007 年版の積み残しを整理することである。活動期間は 1 年とし、次期委員会に整理した結果を引き継ぐ。
- これに対し、委員会名が説明の主旨を表していないのではないかとの意見が出されたが、継続性が重要であり委員会名は変更せず、平成 21 年 7 月程度までを目途に活動を行うことが認められた。

(3) コンクリート教育研究小委員会（第 8 期）設置

宇治委員より、資料 2-3 を用いて説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・ 昨年度、第 7 期小委員会が若手中堅技術者を対象とした基礎知識・示方書に関する双方向の講習会を開催し、その教育効果の高さを確認した。
 - ・ それゆえ、第 8 期小委員会でも若手中堅が勉強を継続できる場を提供する。ただし、昨年度は、参加者の 7 割が大手ゼネコンの技術者であったが、今年度は、維持管理の話題も加えるなどし、発注者やコンサルタンの技術者の参加者を増やしたい。
 - ・ 昨年度は首都圏のみでの開催であったが、今年度は地方（支部）でも開催したい。
- 各支部の希望を調査した上で支部開催の準備を進めることが確認された後、平成 22 年 3 月までの活動が認められた。

(4) コンクリート委員会 3 種委員会の提案

島委員より資料 2-4-1 を用い鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会の設置に関する説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・ 委員長は、12 年前に鉄道総合技術研究所から北武コンサルタントへ移られた渡辺忠朋氏である。コンクリート標準示方書 設計編部会の WG1 の幹事を務めた。
- ・ 性能設計に移行し自由な設計が可能になったにもかかわらず実際にはできていない。この状況を変えるために、進んだ照査技術を積極的に使用できるような研究を行う。具体的な成果としては、示方書の「構造計画」をより良くできることが挙げられる。

これに対する主な質疑は以下のとおり。

- 資料 2-4-1 の「一部の・・・終始している」といった表現は不適切ではないか。公開にあたり留意した方がよい。

- きちんと方向を定めて活動してほしい。

→コンクリート委員会からは島先生が入り、示方書の構造計画に資する検討を充実させる。

審議の結果、設置が認められた。なお、委員会名は 340 番とする。

続いて、橋本委員より資料 2-4-2 を用い、施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会設置が説明された。主な内容は以下のとおり。

- 施工性能小委員会の延長線上に位置づけられる委員会である。
- 主たる目的は、フレッシュコンクリートの施工性能を現場で確認できる簡易な試験方法を提案することである。

これに対する主な質疑は以下のとおり。

- JCI で綾野先生が委員長を務めている施工関連の委員会がある。その活動内容を把握しながら進めると良い。

→そのように進める。

本来であれば、委託で行うような研究を 3 種で行なおうとしているのではないか。

→本来であればコンクリートライブラリーに含まれているべき内容であり、上手くまとめれば、成果を引き上げていきたい。

- 分離抵抗性の簡易な試験方法の開発を検討内容に加えてほしい。

→加える。

審議の結果、設置が認められた。委員会の番号は、341 番とする

(5) 発行図書の実績

岸幹事より資料 2-5 が説明された。主な内容は以下のとおり。

- 赤くマーキングされている書籍は赤字額が大きいもので、青くマーキングされているものは黒字額が大きいものである。水色にマーキングされている書籍は赤字から黒字へと近いうちに転換すると予想されるものである。

- コンクリート標準示方書規準編は売上部数が多いが赤字になっている。これは、規格協会への支払い（著作権）が大きいことによる*。

- コンクリートライブラリー86, 109, および 110 は残部が少なく、近いうちに絶版となる。

これに対する質疑は以下のとおり。

- 規準編の価格設定が間違っているのではないか。出版委員会などへ申し入れるべきではないだろうか。

→規準編だけで収支を考えるのかそれとも示方書全体で考えるのかをまず整理しておく必要がある。加えて、例えば、変更になった箇所だけをばら売りするなど、販売方法を見直してみる必要もあるのではないか。

※その後、規準編が赤字になっているのは、出版委員会の計算ミスによることが判明。

- 2002 年版と 2007 年版で売上部数が大きく違うのはなぜか。

→2002 年版の部数は販売期間が 5 年以上の累計であることによる。なお、2007 年版の出版開始後 3 か月時点の部数は、同時点での 2002 年版の時の部数を上回っており、出足はほぼ順調である。

英語版の販売方法などを含め、何かあれば幹事団にコメントすることとし、審議は終了された。

(6) 平成 19 年度委員会活動度個別調査について

横田幹事長より、資料 2-6-1 から 2-6-5 が説明された。主な内容は以下のとおり。

- ・ 3つの評価項目に対する活動度調査書を作成中である。まだ提出まで時間あるので審議事項として挙げた。
- ・ 評価項目Ⅰ（委員会活動への参加・関与者数）と評価項目Ⅱ（委員会の年間粗収益額）は、それぞれ、34,825人と42,746千円である。
- ・ 評価項目Ⅲ（留意すべき活動内容）の中に、社会への直接的な貢献としては、建設マネジメント分野との連携すべき課題を明らかにしたことなどを、学術・技術進歩への貢献としては、示方書を発刊したことなどを、会員資質への向上としては、14件の講習会やシンポジウムを行ったことなどを、国内・国際社会に対する責任としては、垂井高架橋のひび割れ損傷に関する調査研究活動などを挙げている。その他加えるべきことがあればご指摘いただきたい。
- ・ なお、来年度からは、評価項目Ⅰに重きをおいて評価判定されることになっている。試算では、コンクリート委員会へ配分される調査研究費は20万程度増額される見込みである。

これに対する主な質疑は以下のとおり。

- ・ 評価項目Ⅲの国内・国際社会に対する責任の中に、JICAを通じたベトナム土木学会の基準作成協力を着手したことを加えてほしい。

→加える。

以上で審議は終えられた。

(7) 1種・2種小委員会委員追加・変更

宮川委員長より資料2-7-1を用いて委員の追加・変更が提案され、すべて認められた。

(8) その他

二羽委員より、回覧資料「JSCE2010 社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力」は、企画委員会のここ数年間の活動報告であり、土木学会ホームページからダウンロードできることが紹介された。

4. 報告事項

(1) 2007年版示方書の販売状況

信田幹事より資料2-8が説明された。

- ・ これまでに設計編が約7,000部、施工編が約9,000部、維持管理編が約4,500部、ダムコンクリート編が約3,000部販売されており、維持管理編は増刷を行った。今後も、状況をみながら増刷する。
- ・ 関連して、各委員より、支部の講習会の日程が紹介された。
- ・ 九州支部（福岡）は9/3
- ・ 東北支部（仙台）は11/14

(2) 102規準関連小委員会の活動状況

橋本委員より資料2-9が説明された。

単価の設定に関して岸幹事が出版と議論しそれを規準部会に伝えること、また、予定通り2010年の出版を目指して活動を進めることが確認された。

(3) 3種委員会委員の追加・交代

服部幹事より資料2-10を用いて報告された。

(4) 講習会・シンポジウム等開催報告及び案内

二羽委員より下記の講習会の開催案内があった。（資料2-11-1）

- ・ ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針（案）に関する講習会、9月4日13:00～16:45、新宿文化センター、申込締切日：2008年6月25日（水）

服部幹事より以下の講演会への投稿が依頼された。(資料 2-11-2)

- ・ 第 52 回日本学術会議 材料工学連合講演会 土木学会コンクリート委員会担当オーガナイズドセッション (10 月 22 日～10 月 24 日京大会館にて開催), 講演申込締切日: 2008 年 7 月 11 日

島委員より以下のシンポジウムへの投稿が依頼された。(資料 2-11-3)

- ・ Society for social management systems 2009, 2009 年 3 月 5 日～3 月 8 日, 高知, アブストラクト締切日: 2008 年 12 月 15 日.

(5) その他

- ・ 島委員より, 329 委員会が講習会 (7/4) を開催し, 100 人以上の参加者であったことが報告された.
- ・ 鈴木委員より, 336 委員会の成果報告会を 11/5 に土木学会の講堂で行うことが紹介された.
- ・ 入矢委員より, 第 8 回高性能・高靱性コンクリートに関する国際シンポジウムへの技術展示の出展学協会は 7 団体 (うち国内は土木学会, 材料学会, 日本コンクリート工学協会および P C 技術協会) であり, 土木学会として何を出展するのかを幹事団と相談して決める予定であることが説明された. パネル等の作成費用 (10 万程度) はコンクリート委員会の予算から用意すること, ブースには示方書英訳版を置くことが確認された.
- ・ 堺委員より, 国際小委員会のセミナーをスウェーデンで行ってきたことが報告された. また, KSCE とのジョイントセミナーを日本で実施するよう準備を進めてきたが韓国側が継続して行えないとのことなので開催を中止することになったことが報告された.
- ・ 鈴木委員より岩手・宮城内陸地震の被災状況が説明された. 概要を以下に示す.

「6 月 14 日 8 時 43 分に岩手県 (仙台市の北約 90km) でマグネチュード 7.8 の地震があった. 岩手の震度は 6 強, 仙台の震度は 5 であった. 高速も鉄道もすぐに復旧した. 建築及び土木構造物に大きな損傷はなかったが, 大きな地盤災害があった. 祭時 (まつるべ) 大橋 (S53 竣工) が落橋したが, その損傷メカニズムの解明と架け替えを扱う委員会が立ち上がる. また, 土木学会, 地盤学会, 地すべり学会などの合同調査委員会が立ち上がった. 土木学会全国大会では, 特別セッションを用意するが地盤の報告がメインとなる。」

- ・ 続いて, 石橋委員より以下の補足説明があった.

「新幹線で観測された振動速度の最大値は 40 カインくらいであった. これは三陸南地震と同程度である. せん断先行型の橋脚の補強は既に終わっておりそれゆえ損傷は見られなかった. 軟弱地盤に軽微な損傷があった。」

- ・ 鈴木委員と石橋委員の報告を受け, 損傷がなかった, 言い換えれば, 構造物は健全だったと言う報道が一切なかったことが指摘され, 問題がなかったことをきちんとアナウンスすることも大事であろうとの意見が幹事および複数の委員から述べられた.
- ・ 宮川委員長より, 今回のような地震の調査に対して, コンクリート委員会として支援したいとの意思が示された. また, 現在, 土木学会では, 早稲田大学の濱田先生が中心となり中国四川大地震の支援を展開しているが, 将来的には構造物の耐震設計へと発展する可能性もあり, その際の協力が依頼された.

5. その他

- ・ 次回幹事会 (案件の締切): 2008 年 9 月 2 日 (火).
- ・ 平成 20 年度第 3 回常任委員会: 2008 年 9 月 9 日 (火) 14:00～17:00. 終了後に懇親会を開催.
- ・ 9 月 9 日は 12 時から第 3 種委員会連絡会議を開催する. 小委員会の活動報告の締切を 8 月 20 日頃に

設定する予定である。別途連絡をするので、活動報告の執筆をお願いしたい。

以 上